



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

SDGsとビジネス

2017年11月28日

慶應義塾大学大学院教授

国連大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー

蟹江憲史



SDGs – 持続可能な開発目標 ～ 2030年の世界の姿 ～

2030年への
世界目標

17目標
169ターゲット
232 (244) 指標

全ての国・企
業等の主体に
普遍的に適用



進捗レビュー
(法的義務なし)

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です

世界の変革

だれ一人取り残
されない

SDGsの3つの背景

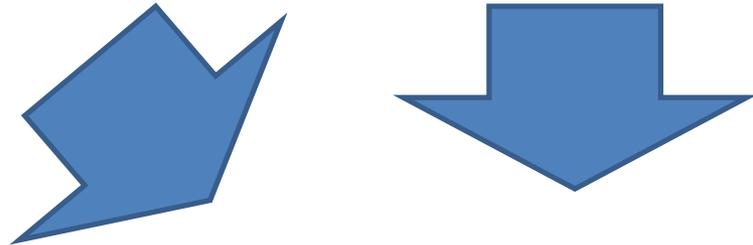
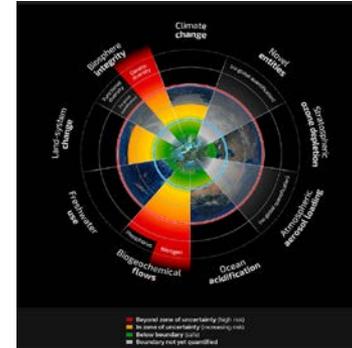
地球システムの限界

ミレニアム開発目標 (MDGs) の未達成課題

目標と主なターゲット

<p>目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる 	<p>目標5: 妊産婦の健康の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する
<p>目標2: 初等教育の完全普及の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする 	<p>目標6: HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> HIV/AIDSの蔓延を阻止し、その後減少させる
<p>目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教育レベルにおける男女格差を解消する 	<p>目標7: 環境の持続可能性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる
<p>目標4: 乳幼児死亡率の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する 	<p>目標8: 研究のためのグローバルなパートナーシップの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

Xロコは「特定非営利活動法人」はつけない。世界のまっすぐが作成したもの。



新たな社会現象と不安定化する世界



2015年を目標年とした国際開発目標（ミレニアム開発目標、MDGs）の未達成課題

目標とターゲット	アフリカ		アジア				オセアニア	ラテンアメリカ・カリブ海	コーカサス・中央アジア
	北	サハラ以南	東	東南	南	西			
目標 1 極度の貧困と飢餓の撲滅									
極度の貧困の半減	軽度の貧困	非常に重度の貧困	軽度の貧困	中度の貧困	重度の貧困	軽度の貧困	-	軽度の貧困	軽度の貧困
生産的雇用と働きがいのある人間らしい仕事	大規模な不足	非常に大規模な不足	中規模な不足	大規模な不足	大規模な不足	大規模な不足	非常に大規模な不足	中規模な不足	小規模な不足
飢餓の半減	軽度の飢餓	重度の飢餓	中度の飢餓	中度の飢餓	重度の飢餓	中度の飢餓	中度の飢餓	中度の飢餓	中度の飢餓
目標 2 初等教育の普遍化の実現									
初等教育の完全な普及	高い就学率	中度の就学率	高い就学率	高い就学率	高い就学率	高い就学率	高い就学率	高い就学率	高い就学率
目標 3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上									
初等教育への女子の平等な就学	同等に近い	同等に近い	同等	同等	同等	同等に近い	同等に近い	同等	同等
有給雇用における女性の割合	低い割合	中程度の割合	高い割合	中程度の割合	低い割合	低い割合	中程度の割合	高い割合	高い割合
国会における平等な女性議員数	中程度の女性議員数	中程度の女性議員数	中程度の女性議員数	少ない女性議員数	少ない女性議員数	少ない女性議員数	非常に少ない女性議員数	中程度の女性議員数	少ない女性議員数
目標 4 幼児死亡率の引き下げ									
5歳未満幼児死亡率の3分の2引き下げ	低い死亡率	高い死亡率	低い死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率	低い死亡率	低い死亡率
目標 5 妊産婦の健康状態の改善									
妊産婦死亡率の4分の3引き下げ	低い死亡率	高い死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率	中程度の死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率	低い死亡率	低い死亡率
リプロダクティブ・ヘルスへのアクセス	中程度のアクセス	少ないアクセス	多いアクセス	中程度のアクセス	中程度のアクセス	中程度のアクセス	少ないアクセス	多いアクセス	中程度のアクセス
目標 6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止									
HIV/エイズのまん延防止および減少	低い発生率	高い発生率	低い発生率	低い発生率	低い発生率	低い発生率	低い発生率	低い発生率	低い発生率
結核のまん延防止および減少	低い死亡率	高い死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率	中程度の死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率	低い死亡率	中程度の死亡率
目標 7 環境の持続可能性の確保									
改良された飲料水を利用できない人々の割合を半減	高い普及率	低い普及率	高い普及率	高い普及率	高い普及率	高い普及率	低い普及率	高い普及率	中程度の普及率
衛生施設を利用できない人々の割合を半減	中程度の普及率	非常に低い普及率	中程度の普及率	低い普及率	非常に低い普及率	高い普及率	非常に低い普及率	中程度の普及率	高い普及率
スラム居住者の生活を改善	低いスラム居住者の割合	非常に高いスラム居住者の割合	中程度のスラム居住者の割合	中程度のスラム居住者の割合	中程度のスラム居住者の割合	中程度のスラム居住者の割合	中程度のスラム居住者の割合	中程度のスラム居住者の割合	-
目標 8 開発のためのグローバル・パートナーシップの構築									
インターネット利用者	中程度の利用者	少ない利用者	多い利用者	中程度の利用者	少ない利用者	多い利用者	少ない利用者	多い利用者	多い利用者

成果チャートは2つのレベルで作成されています。各欄において、文言は現在の開発レベルを示し、色は以下の凡例に従いターゲットに対する進捗の程度を示しています。

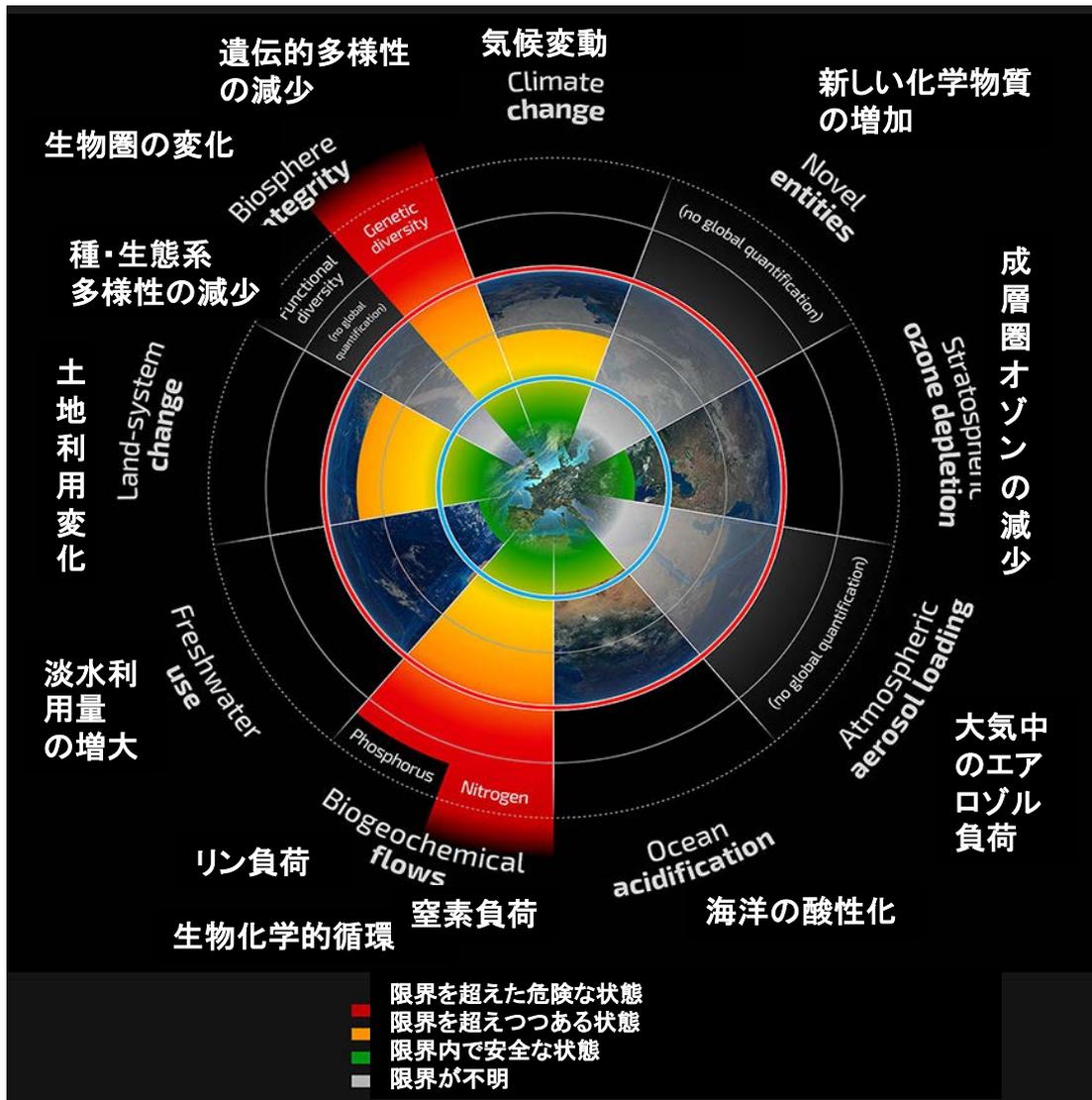
- ターゲットを達成又は高い進捗
- 良好な進捗
- 着実な進捗
- 不十分な進捗又は悪化
- データ紛失又はデータ不十分

地域分類および国別データについては国連統計部ミレニアム開発目標ウェブサイト mdgs.un.org をご覧ください。各地域において国別の状況が地域の平均と著しく異なる場合があります。データは更新され、方法論も改訂されているため、本成果チャートは過去のチャートと比較することはできません。

出典：国際連合以下の機関の提供による 2015年6月時点で利用可能なデータおよび推計値に基づく：国連食糧農業機関（FAO）、列国議会同盟（IPU）、国際労働機関（ILO）、国際電気通信連合（ITU）、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、国連教育科学文化機関（UNESCO）、国連人間居住計画（UN-Habitat）、国連児童基金（UNICEF）、国連人口部（UN Population Division）、世界銀行（WB）、世界保健機関（WHO）。

編集：国連経済社会局統計部

悲鳴を上げる地球環境

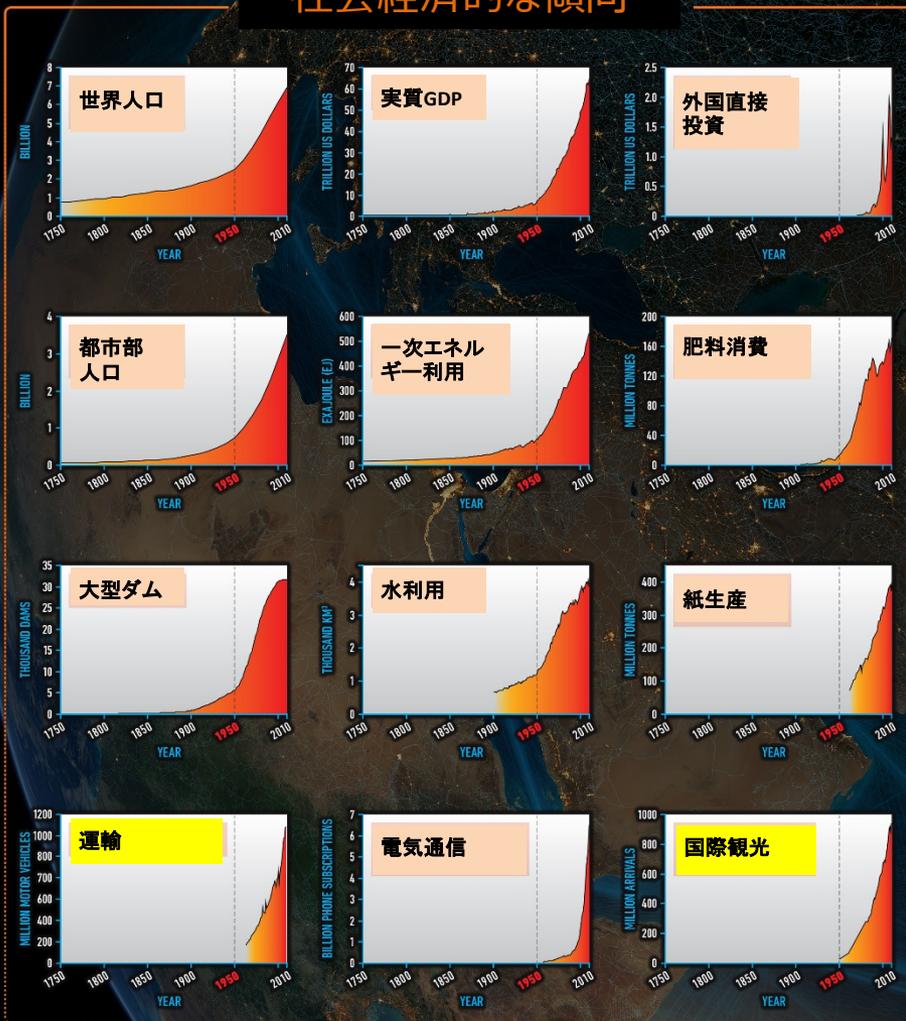


朝日新聞2016年4月3日朝刊

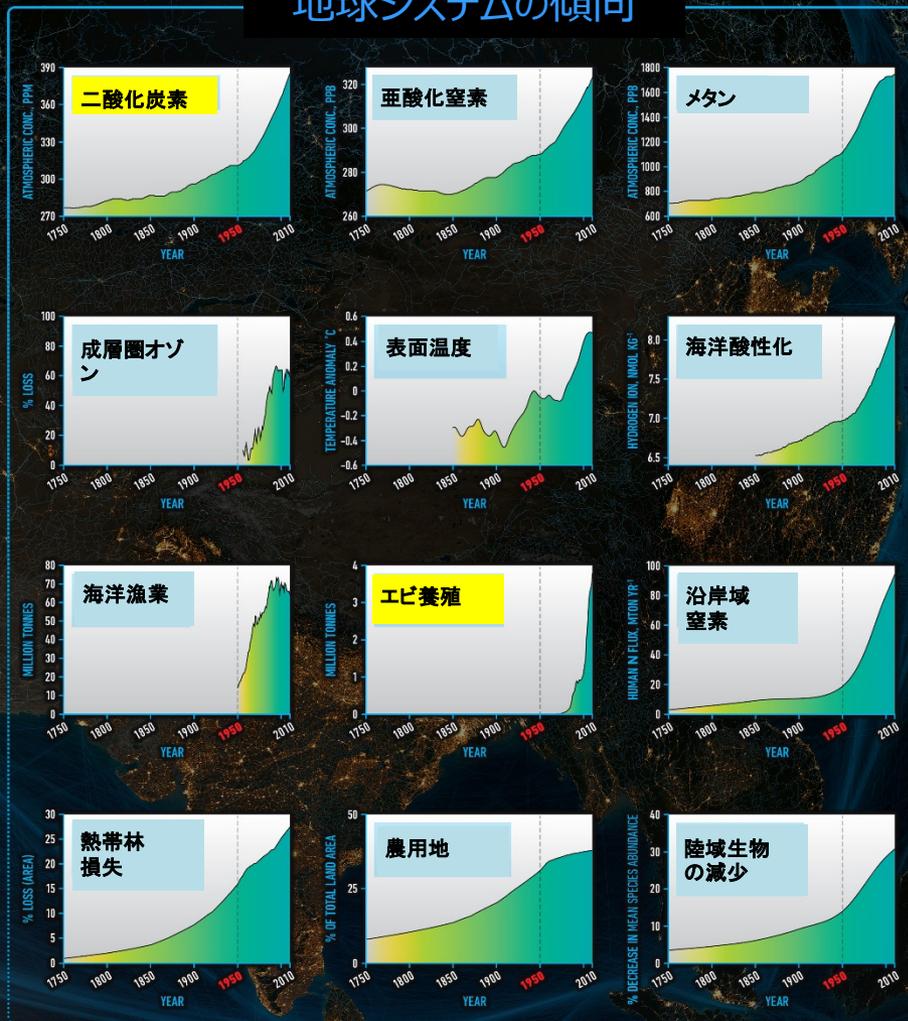
⇒ 環境問題の「量」と「質」の変化
 身近な環境問題から地球変動の
 課題へ
 Cf.「人類世 (anthropocene)」
 (Crutzen 2002)

人間が地球をかえる：1950年から右肩上がり急加速

社会経済的な傾向



地球システムの傾向



REFERENCE: Steffen, W., W. Broadgate, L. Deutsch, O. Gaffney and C. Ludwig (2015), The Trajectory of the Anthropocene: the Great Acceleration, Submitted to *The Anthropocene Review*.

MAP & DESIGN: Félix Pharand-Deschênes / Globaia



このままの成長パターンでは地球がもたない!!

社会システムの変化と不安定・不確実性



広がる格差



約30億人のインターネットユーザー
(世界の世帯の44%)
約70億人の携帯電話利用者
約10億人のFacebook利用者



パンデミック現象



移動するひとびと
(難民・移民)



国際テロリズム



21世紀的な社会・世界動向に対応した課題解決が必要

目標、ターゲット、指標の例 – 日本の課題を国際基準で考える

目標1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を撲滅する

1.1 **2030年までに**、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている、極度の貧困を**あらゆる場所で撲滅**。

指標(案): 性別、年齢、グループ、雇用状況、地理的(都市・農村)ごとの国際貧困ライン以下にある人口割合

1.2 **2030年までに**、各国の定義に従ってあらゆる次元の貧困状態にある、あらゆる年齢の男性、女性および子どもの割合を**少なくとも半減**させる。

指標(案): 性別と年齢ごとの国内貧困ライン以下で生活する人口の割合;

国の定義によるあらゆる次元からの貧困状態にある男性、女性、子供の割合

1.3 最低限の基準を含む、各国における適切な社会保達成障制度および対策を実施し、**2030年までに**貧困層および脆弱層に対し**十分な補償**をする。

指標(案): 性別、distinguishing children、失業者、高齢者、障がい者、妊婦、新生児、業務上負傷者、貧困状態や脆弱状態にあるなかで社会保障制度の適用を受けている人々の割合

1.4 **2030年までに**、すべての男性および女性、特に貧困層および脆弱層に対し、基本的サービスへのアクセス、オーナーシップ、および土地や他の形態の財産、相続財産、天然資源、適切な新技術やマイクロファイナンスを含む金融サービスの管理だけでなく、経済的資源に対する平等な権利も**保証**する。

指標(案): 基本的サービスのアクセスを有する世帯人口の割合; 法的に認知された書類など土地所有権を有する総成人人口の割合(性別、所有権別に)

1.5 **2030年までに**、貧困層や脆弱な立場にある人々のレジリエンスを構築し、気候関連の異常気象やその他の経済的、社会的、環境的な打撃や災害に対するリスク度合いや脆弱性を**軽減**する。

指標(案): 100,000人あたりの災害による死亡、不明、被害者数; 世界のGDPに関する災害の直接的経済損失; 国内と地域の災害リスク削減戦略を有する国数

1.a あらゆる次元での貧困撲滅のための計画や政策の実施に向け、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対し、適切かつ予測可能な手段を提供するために、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源から多大な資源の動員を**確保**する。

指標(案): 政府が直接的に貧困削減プログラムに配分した資源の割合; 政府が公共事業に支出する割合

1.b. 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国家、地域および国際的な政策の**枠組みを構築**する。

指標(案): 特に女性、貧困層、脆弱層を対象とする政府支援の割合

貧困、こどもの貧困解消は
国際約束

新しいアプローチ 包括的な目標

課題が芽づる式につ
ながってくる



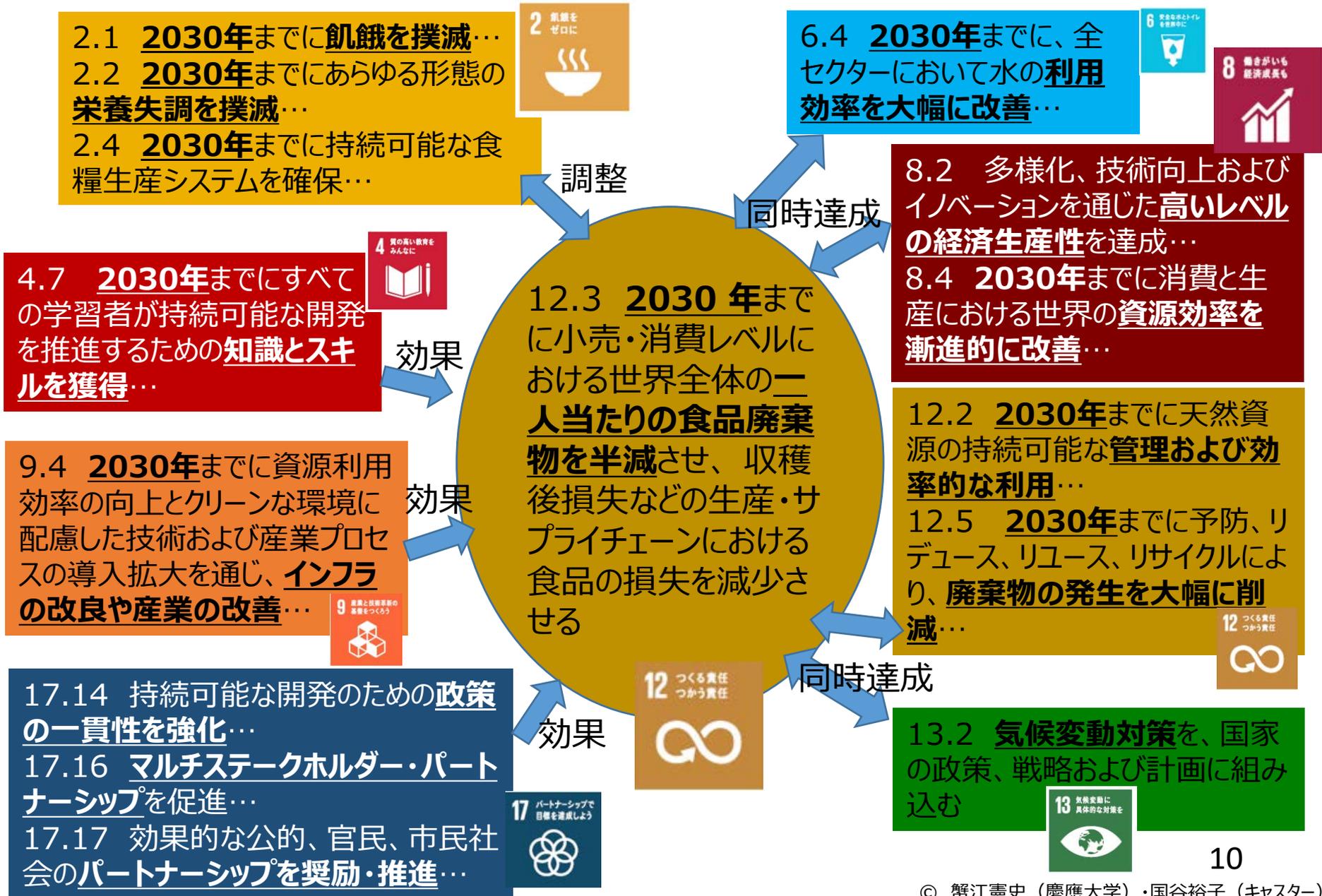
David Griggs, Kanie et al. 'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

目標は相互に関連し合う (総合的解決へ向けた政策調整必要)



新しいしくみ

目標ベースのガバナンス⇔ルールベースのガバナンス

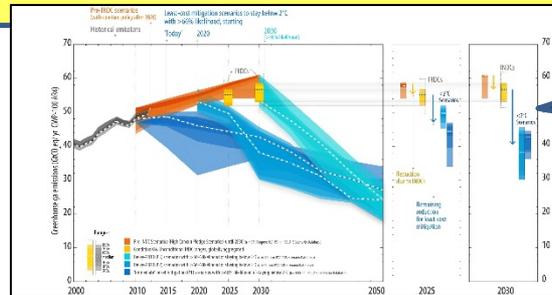
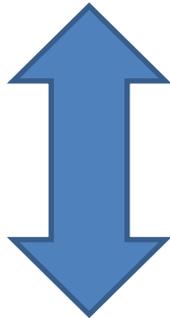
これまで
主流

国際条約（例－気候変動枠組条約）
⇒ 国際ルールをつくるガバナンス



できることの積み上げ式で
必要なアクションがとれず（フォアキャストिंग）

SDGs



パリ協定実施でも
脱炭素目標とは大きなギャップが！

- ❑ 野心レベルの提示からスタート（バックキャストिंग）
- ❑ 実施メカニズム・法的拘束力はなし（各主体が自由につくる）
- ❑ モニタリングと評価のみ





Germany
Industry 4.0

World Economic Forum

第四次産業革命



第一次産業革命（18世紀末～19世紀初）：軽工業機械化（蒸気機関）

第二次産業革命（19世紀後半）：石油、電力、重化学工業

第三次産業革命（20世紀後半）：インターネット出現、ICT普及、自動化

第四次産業革命（21世紀）：コネクティビティ、IoT、極度の自動化

科学技術基本計画

Society 5.0



Society 1.0 狩猟社会

Society 2.0 農耕社会

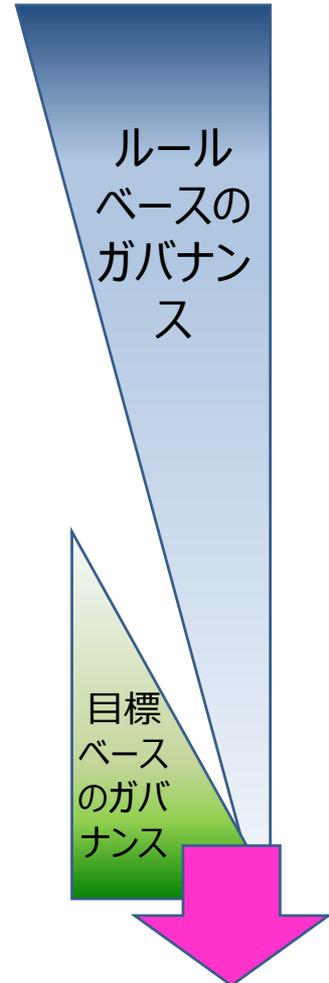
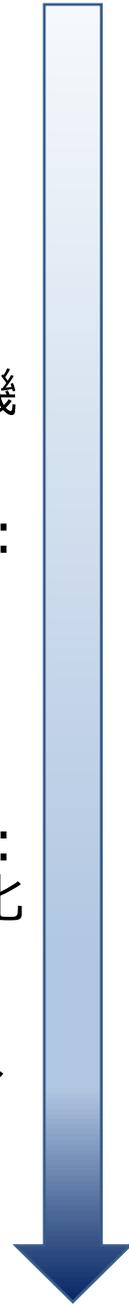
Society 3.0 工業社会

Society 4.0 情報社会

Society 5.0 サイバー空間
フィジカル空間を高度に融合
で経済発展社会課題解決の
両立

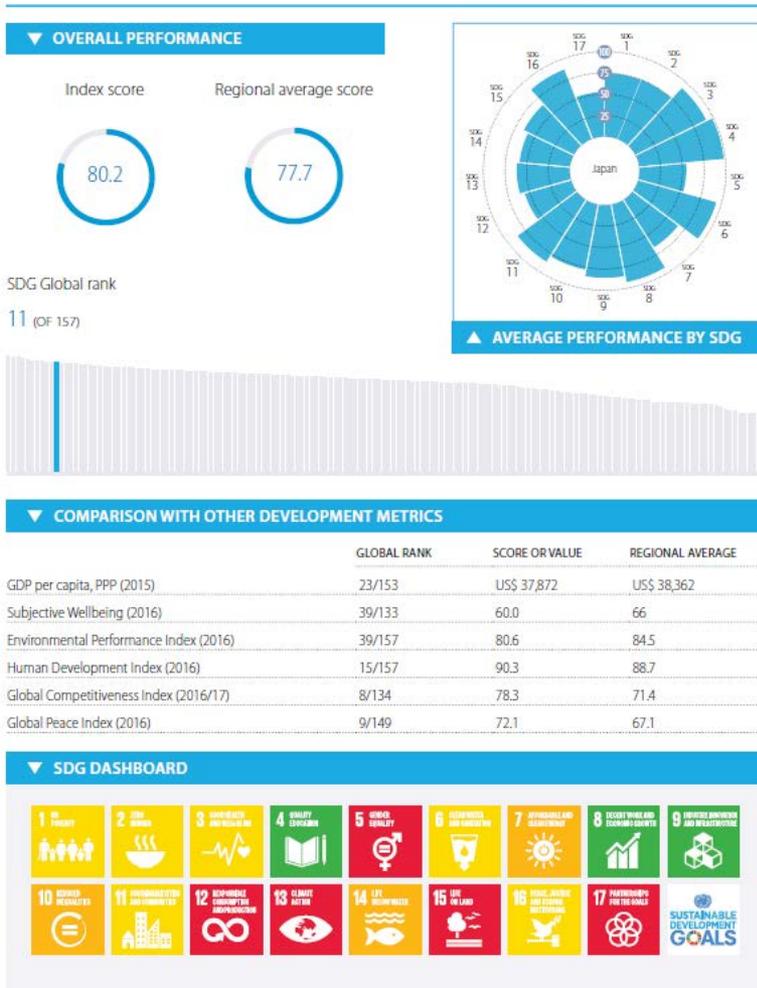
ルール
ベースの
ガバナンス

目標
ベースの
ガバナンス

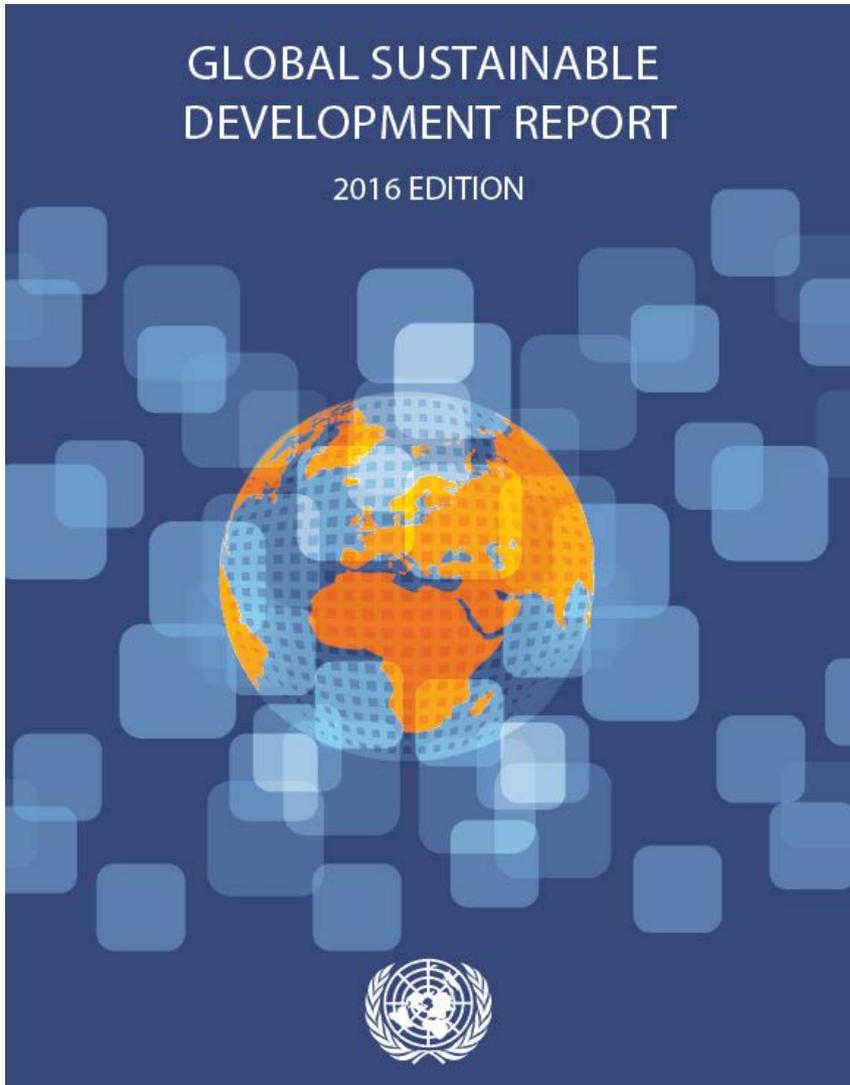


新しいものさし 未来基準で測る

JAPAN OECD Countries



数字で測る（指標）



数字以外も測る

SDGsの実施状況:グローバル（国連）

- 2017年7月、国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）を実施
 - テーマ：Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world
 - 43か国の国別レビューと、7つの目標に関するレビュー（目標1、2、3、5、9、14、17）



- 2018年HLPF
 - テーマ：Transformation towards sustainable and resilient societies
 - 目標のレビュー：6、7、11、12、15、17



レビューの例（目標12：SDGs進捗に関する事務総長報告書E/2017/66）

- 目標12の達成には、**SCPに関する強固な枠組みが必要**であり、有害化学物質や廃棄物に関する**国際法に準拠**しながら、国やセクター別の計画、ビジネスの慣行や消費者の**行動の統合**が必要。
- 経済成長と自然資源利用を分離させることが重要。しかし、グローバルレベルでみた状況は良くない。国内の材料消費量(経済的プロセスで利用された自然資源の総量)は、2000年から2010年の間にGDP原単位当たり1.2キロから1.3キロに増加。国内総材料消費量も487億トンから710億トンに増加。**特に東アジアで増加**。

2019年 国連総会のもと首脳級レベルハイレベル政治フォーラム

日本政府：これまでの主なプロセス

2016年

5月20日 総理を本部長、全閣僚を構成員とする **SDGs推進本部**を設置

9月12日 第1回**円卓会議**を開催

10月18日 **実施指針の骨子を決定**（推進本部幹事会決定）

10月19日 **パブリック・コメントを実施**（～11月1日）

11月11日 第2回**円卓会議**を開催

12月22日 第2回SDGs推進本部会合を開催

実施指針を決定（推進本部決定）

2017年7月

ハイレベルポリティカルフォーラムにて日本レビュー発表

PPAP (Public Private Action for Partnerships)



第2回SDGs推進本部会合で発言する安倍総理(2016年12月)(内閣広報室)



SDGs 実施指針の概要

【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

People

②健康・長寿の達成

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実

■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

③成長市場の創出、地域活性化、 科学技術イノベーション

Prosperity

④持続可能で強靱な国土と 質の高いインフラの整備

■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組 ■質の高いインフラ投資の推進

⑤省・再生可能エネルギー、 気候変動対策、循環型社会

Planet

⑥生物多様性、森林、海洋等の 環境の保全

■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築

■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

Peace

⑦平和と安全・安心社会の実現

■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進 ■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

Partnership

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援

- 実施指針の付表において、関係省庁から提出された国内及び国外の140の施策を、可能な限り具体的な指標と共に掲げた。

SDGs「先進国」の特徴

－日本との比較において

- SDGs「先進国」は政策の統合実施、計画、評価において「実質的」政策手段や省庁間調整プロセスを設置（ノルウェー、スイス、フィンランド等）
 - 日本における政策列挙の現状とは大きく異なる
- 予算化などによる政策誘導策を導入する国も（ノルウェー等）
- パートナーシップ、ステークホルダーとの協働を強調

SDGsと地方創生

内閣府地方創生推進事務局 自治体SDGs推進のための有識者検討会

- 「地方創生に向けた自治体SDGs推進のあり方」
- 地方創生に向けた自治体SDGs推進事業
30年度概算要求額11.8億円（新規）【先進事例創出】
- 第7回「環境未来都市」構想推進フォーラム



第一回検討会模様

自治体におけるSDGs推進

- 北海道下川町（SDGsへ向けたフィールドワークツアー、9月）
 - 札幌市（シンポジウム、6月）
 - 滋賀県（SDGs推進シンポジウム、知事のコミット、SDGsを軸とした次期基本構想策定検討、滋賀版キャンパスSDGs）
 - 兵庫県豊岡市（シンポジウム開催、9月）
 - 北九州市（シンポ事務開催（6月））
- などなど

- ソチ宣言（2013年11月1日、World Conference on Sport and Environment, IOC and UNEP）
 - IOCに対し、環境や、より広範なサステナビリティに関する要件が、オリンピック開催のシステムや構造に組み込まれ、長期的なレガシーとして扱われるよう要求
 - IOCやパートナー組織・団体が、ポスト2015年開発アジェンダ（＝SDGs）の開発やプロモーションに従事し、さらに、オリンピック委員会や体育協会がこうした活動に従事するよう奨励するよう要請
- 「オリンピック・アジェンダ2020」（Olympic Agenda 2020）：
「オリンピック競技大会のすべての側面」および「オリンピック・ムーブメントの日常業務」に持続可能性を導入することを提言
- 国連総会：IOCはSDGsの達成とスポーツの関係に言及

『持続可能性に配慮した運営計画 第1版』

の取り組み

I. 気候変動（ローカーボンマネジメント）



II. 資源管理



III. 大気・水・緑・生物多様性等



IV. 人権・労働・公正な事業慣行等への配慮



V. 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）



仏教xSDG

- お寺という「場」を活用した活動のスケールアップ
 - 地域コミュニティによる持続可能な行動の拠点に
- 草の根活動をSDGsでスケールアップ
- 「おさがり」として「おすそわけ」をする発想



国連にて採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」を理念とし、貧困・飢餓・不平等など17の課題を解決するための目標です。SDGsを通して一人でも多くの人々の苦悩が解決する道を学ぶため、シンポジウムを開催します。

第25代専如門主伝灯奉告法要
首都圏協賛行事

次世代リーダーズサミット

テーマ「誰一人取り残さない」

開催日

2017年

11月8日(水)

13時30分~17時

場所

築地本願寺

東京都中央区築地3-15-1

・お申し込み不要
・入場無料 ※お席には限りがございます

お問い合わせ

浄土真宗本願寺派総合研究所
TEL (075) 371-9244

主催

浄土真宗本願寺派(西本願寺)

後援

公益財団法人 全日本仏教会



大谷 光淳
本願寺派第25代門主



マーヘル・ナセル
国連広報局アウトリーチ部長



賀江 善史
慶應義塾大学前教授



国谷 裕子
東京藝術大学理事



末吉 里花
一般社団法人
エシカル協会
代表理事



松島 健朗
NPO法人
おてらおやつクラブ
代表理事



内山 俊宗
相愛大学教授



IoT×SDG – 第4次産業革命



- 第4次産業革命は自律分散。協調的にするためには共有されたビジョンや共通目標の存在が重要
→ そのための手段の一つがSDGs
- 第4次産業革命ではルールを超えた現実が起こってくる
→ その現実に一定の方向性／枠組みを与えるのが「目標ベースのガバナンス」（SDGsはその代表）

大学xSDG

■慶應大学

- キャンパスSDGs。学生のSDGs認知度をあげるために、目標を記したステッカーを学内の関連する場所に貼り、意識付けを行った。
- 駅伝チームのユニフォームにSDGアイコン

■滋賀県内大学

- 県のSDGs取組に併せて、県内の大学もSDGsに関する活動を始め

■金沢工業大学

- ビジネスアワードを創設。日本企業の中でSDGsビジネスの成功事例推進企業を表彰する制度



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

キャンパスSDGs 滋賀ワークショップ・シンポジウム わたしたちの世界を変革する：滋賀の挑戦

滋賀県では国際的に展開している Sustainable Development Goals (SDGs) の取組に向け、持続可能な地域づくり・まちづくりに取り組みんでいます。
本プログラムでは、滋賀県内13大学の学生を中心に県内におけるSDGsの考え方の普及啓発を通じて、より良い地域づくり実現に向けたアクションを企画していくことを目的としています。SDGsに関する学びが深まるクォーターと、県内で広めているためのアイデアを具体化するグループワークを通じ、13日2日で新しい企画提案をつくるワークショップを実施します。
なお、本ワークショップを通じて認定された企業は、2日目のシンポジウムで共有の場を設け、実現に向け行政や関係機関と協働に取り組む機会が与えられていくことを想定しています。

- ！ポイント！
- ①次世代ローカルリーダーのためのプラットフォーム
滋賀県の次世代を担う学生・若者を中心に、県域でのSDGsの普及啓発に取り組みこともを通じて、異なる所属・専門性を持った仲間が集まります。目標達成に向けた協力的な作業を通じて、新しい連携の輪をつくり出します。
 - ②専門家や実務者のサポートを受けて、提案力を磨く
専門知識を持った外部講師やメンター、県内の地産地消の推進者である行政の担当者やさまざまな市民のスタッフが、プロジェクト内容へのメンタリングを実施します。
 - ③行政や経済界へプランを提案し、実現を目指す
ワークショップを通じて企画したSDGsのプランは、滋賀県や企業経営者へ発表します。また、知事へ政策提議を行う機会も設けます。

1. キャンパスSDGs 滋賀ワークショップ	2. キャンパスSDGs 滋賀シンポジウム
日程・会場 平成29年12月9日(日)10:00~20:00 コラボしがらみ3F 中会議室 平成29年12月10日(日)10:00~12:30 滋賀県庁 第2階大会議室 対象 参加費無料 (会場・食料・宿泊) 定員 120名 (豊前町中心、各専修) 対象 12日(シンポジウム)も参加可能な大学生・大学院生・若者 申し込み 11月30日17:00までウェブエントリー ※イベント詳細や申込方法は、各QRコード 下記URL、Facebookよりご確認ください。 http://peatix.com/event/314811	日程 平成29年12月10日(日)14:00~17:00 会場 滋賀県庁第2階大会議室 対象 参加費無料 定員 150名 (豊前町中心、先着) 会場 12月10日17:00までに、下記の問合せ先へ「お名前」「勤務先または所属機関」「ご連絡先(お電話番号またはメールアドレス)」「Eメール」を FAX でご連絡ください。 ※必ずお名前、所属の氏名をご入力ください。 ※お申し込みの受付は、お申し込み締切まで行いません。 ※下記記載いただいた個人情報は、本ワークショップおよびシンポジウムの運営にのみ利用します。

主催 滋賀県、滋賀経済団体連合会 (滋賀県商工会議所連合会、滋賀県商工企業連合会、滋賀県中小企業同協同会、滋賀県経済同友会、(一社) 滋賀県経済産業協会、(公社) びわこビジネスビューロー)
 協賛 (一社) びわ湖大学・地域コンソーシアム (公社) SFC 研究所 x SDG ラボ
 協賛先 滋賀県 総合政策部 企画調整課 未来戦略課 (〒5200-1700)
 TEL | 077-528-3312 FAX | 077-528-4830 E-mail | ad00002@pref.shiga.jp

企業とSDGs

Society 5.0 for SDGs

Keidanren
Policy & Action

Society 5.0は「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた新たな成長モデル
さらには、国連で掲げられたSDGsの達成にも大いに貢献するもの



経団連はSDGsを支援しています。

持続可能な社会の実現に向けた企業行動のあり方

森川典子 (Mori Konomi) 経営者
江崎史 (Egami Fumi) 経営者
黒田かをり (Kuroda Konomi) 経営者
二宮雅也 (Ninomiya Masayoshi) 経営者
遠藤信博 (Endo Nobuhiko) 経営者

社会改革の青い目印
達成されたSDGsが

7 持続可能な社会の実現に向けた企業行動のあり方

「CSR」での「表現」と見える化

社会課題に応える伊藤園

伊藤園グループでは、国連目標(SDG)2030年を用いて、7つの目標(7つの中核課題)に別れて、事業活動の方向性を明確に設定し活動を展開しています。また、中核課題の1人、健康、消費者保護、社会課題の各分野を2030年までの長期的な視点から取り組み、社会課題と事業活動の両方実現を目指す共有価値の創造(CSV)を実現しています。

伊藤園グループのCSR CSVとSDGs

社会課題

日本の課題

高い高齢化率 40%
日本は少子高齢化が進み、2030年には高齢化率40%に達する見込みです。高齢化が進むにつれて、労働力不足や社会保障費の増大など、さまざまな課題が生じています。

高い食料自給率 39%
日本の食料自給率は39%と、先進国の中で最も低い水準です。食料の安定供給や食料の安全保障を確保するためには、食料の生産性を高める必要があります。

求められるCO2削減 -26%
気候変動の深刻化に伴い、2050年までに世界のCO2排出量を削減する必要があります。日本は2050年までにCO2排出量を削減する必要があります。



SDGs対応
伊藤園グループは、SDGsの17の目標のうち、7つの中核課題に別れて、事業活動の方向性を明確に設定し活動を展開しています。また、中核課題の1人、健康、消費者保護、社会課題の各分野を2030年までの長期的な視点から取り組み、社会課題と事業活動の両方実現を目指す共有価値の創造(CSV)を実現しています。

先進国・発展途上国共通の2030年への目標：持続可能な開発目標 (SDGs)

1. 貧困の撲滅	2. 健全な食料・農業・農村の持続可能な開発	3. 健康と長寿な生活を達成	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業とイノベーションに力を集中	10. 人や国・地域間の格差をなくす	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つぶやみ・責任消費	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさも守ろう	16. 公正な裁判と法の支配	17. パートナーシップで目標を達成しよう
----------	------------------------	----------------	----------------	------------------	------------------	-----------------------	---------------	--------------------	--------------------	-------------------	---------------	------------------	---------------	---------------	----------------	-----------------------

外部からの評価
伊藤園は、SDGsの17の目標のうち、7つの中核課題に別れて、事業活動の方向性を明確に設定し活動を展開しています。また、中核課題の1人、健康、消費者保護、社会課題の各分野を2030年までの長期的な視点から取り組み、社会課題と事業活動の両方実現を目指す共有価値の創造(CSV)を実現しています。



SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けたレノバのコミットメント

- レノバのミッションとビジョン**
ミッション/経営理念：グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し様々な社会的課題を解決する
ビジョン/目指すべき企業の姿：日本とアジアにおけるエネルギー産業のリーディング・カンパニーとなる
- COP21で採択された、世界的にCO2を削減する取り組みに貢献**
全国の8地域10か所の「蓄電開始計画+建設中再生エネルギー所」をはじめ、今後も積極的に再生可能エネルギー事業の開発を推進。2030年までに1,000万t-CO2の削減を目指します。
※CO2削減量は2013年までの実績値。
- 再生エネルギー事業を通じて地方創生に貢献**
地域産業の活性化：地元企業とのコラボレーションによる事業展開
地域雇用の創出：発電所の運営、設備のメンテナンスなどによる雇用創出
土地の有効活用
- 日本のエネルギーミックス方針(※)の達成に貢献**
現在の再生エネルギー電源(太陽光、バイオマス)に加え、今後10年程度の間に地熱、洋上風力といった、日本でモノポータップで社会的期待の高い電源の創出にチャレンジ
※再生エネルギーを全体の22-24%に引き上げる政府方針(平成27年7月:経済産業省 資源エネルギー庁)

エリクソンはマネージメントレベルでアンバサダーを任命

Examples of our SDG Ambassadors include:



- SDG 1. Per Borgklint**
Senior Vice President and Head of Segment and Business Unit Support Solutions
- SDG 2. Rima Qureshi**
Senior Vice President, Chief Strategy Officer, Head of Group Function Strategy and Head of M&A
- SDG 3. Angel Ruiz**
Head of Region North America
- SDG 4. Elaine Weidman-Grunewald**
Vice President Sustainability and Corporate Responsibility
- SDG 5. Valter D'Avino**
Head of Ericsson Region Western and Central Europe
- SDG 6. Anders Thulin**
Senior Vice President, Chief Information Officer and Head of Group Function Business Excellence and Common Functions
- SDG 7. Arun Bansal**
Head of Business Unit Radio
- SDG 8. Jan Frykhammar**
Executive Vice President, Chief Financial Officer and Head of Group Function Finance
- SDG 9. Ulf Ewaldsson**
Senior Vice President, Chief Technology Officer and Head of



■住友化学：サステナブルツリー、Sumika Sustainable Solutionsプロジェクトによる社内認知向上

持続可能な社会の実現に私達に何ができるか
1人ひとりが考え投稿する

サステナブルツリー

2016年6月

11か国語のマンガで
全世界のグループに呼掛けた
「SDGs 17目標の中から、
各人テーマを選び投稿しよう」

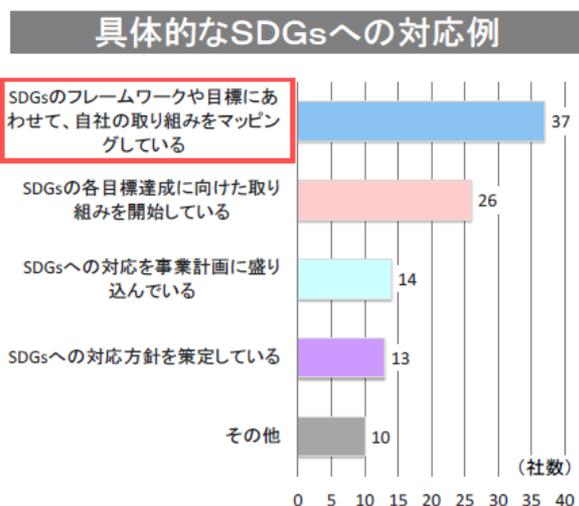
100日間で世界中から6005件の投稿



福田(2017年6月7日)

課題

- SDGsの認識はあがっているが、社員がSDGsを理解する段階に至っているかどうかは会社により濃淡。多くはCSR担当部が推進（本業に入れるか検討中が多い）。
- 報告書等で企業活動をSDGsに紐づけて表現するところが大多数。評価、行動の改善にはいまだ至っていない。



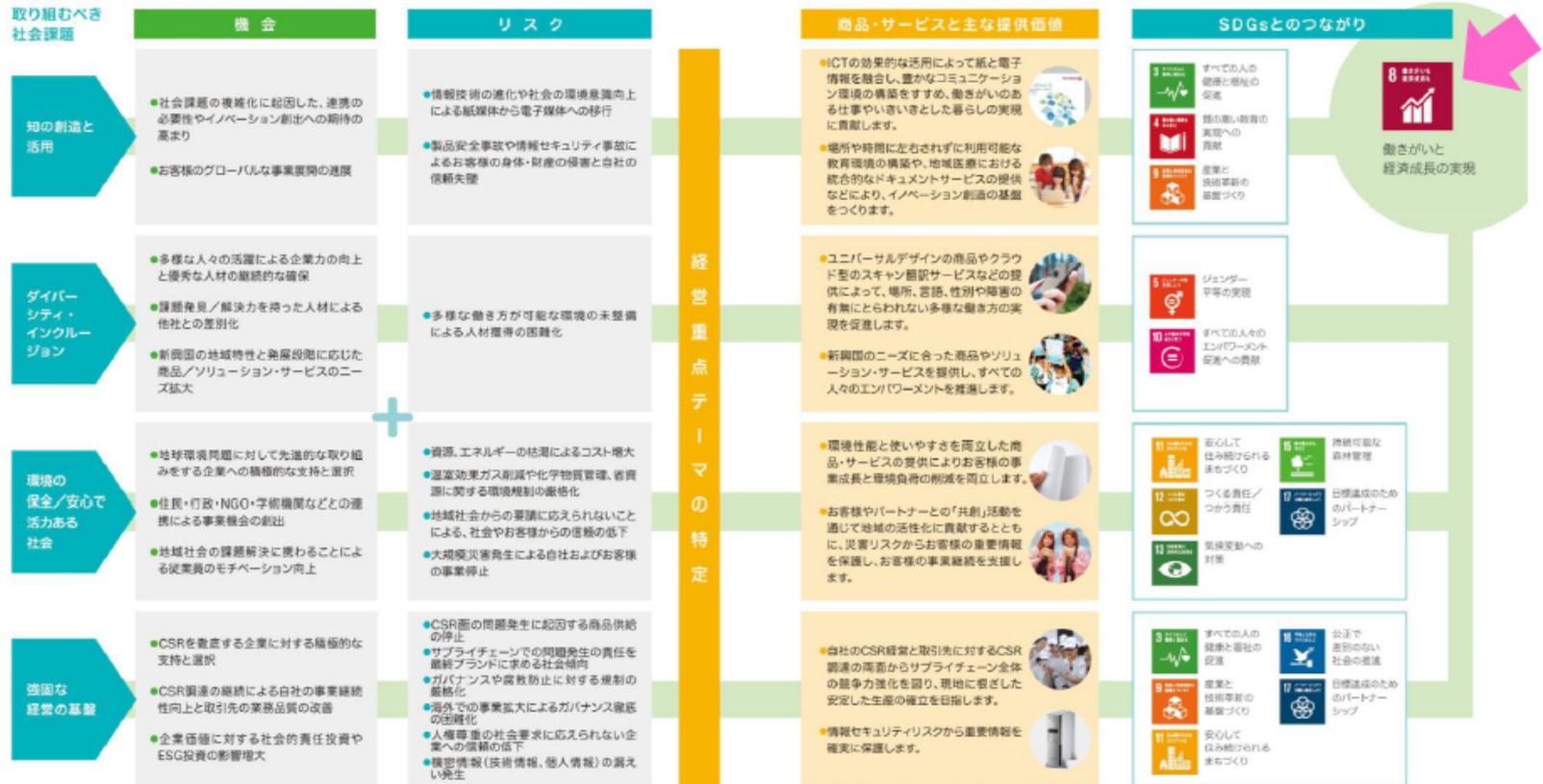
経団連会員企業及び
CBCC会員企業1363社
対象アンケート調査



富士ゼロックスの例

当社の提供価値とSDGsとのつながり (p.13~14)

経営重点テーマの特定に際し、取り組むべき社会課題がもたらす自社にとっての機会とリスクを分析。また、商品・サービスの提供価値とSDGsとのつながりを整理し、富士ゼロックスが事業を通じて目指すSDGsの最大のゴールは「目標8：働きがいと経済成長の実現」であることを明確化した。



「CSR」から本業へ

～適正飲酒啓発と豊かなアルコール文化の醸成～

SDGs 目標・ターゲット	 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。 (ターゲット: 3.5)</p> <p>2020年までに、世界の道路交通事故による死亡者を半減させる。 (ターゲット: 3.6)</p>
コミットメント	<p>0.1</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題に応じて、アルコールの有害な摂取の根絶に向けて取り組みます。 酒類のカテゴリーごとに、ノンアルコール・低アルコール商品の開発や認知向上に努めます。
ストーリー	<ul style="list-style-type: none"> キリングループは、責任ある酒類メーカーとして、アルコールの有害な摂取が人々の健康に悪影響をもたらす、社会問題につながり得ることを懸念しています。これらの問題に対処するため、私たちは、適正飲酒の啓発に努めることにより、豊かな飲酒文化を醸成していきます。
アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の原因となる大量飲酒、未成年や妊産婦の飲酒、飲酒運転、飲酒による暴力行為などの課題に対応した啓発プログラムをグループ横断で整備し、各事業において、地域ごとの課題に応じたプログラムを選択して実行します。以上においては、行政や医療機関、NGOなどと連携し、信頼性と実効性を高めます。 研究開発力を活かし、ノンアルコール・低アルコール商品の開発を強化し、お客様の選択の幅を広げます。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 2018年までに各地域の課題に応じた啓発プログラムを開発・実施 2019年以降、啓発プログラムの実施人数や回数など、普及度に関する目標を設定 ノンアルコール・低アルコール商品のアイテム数を拡充
具体的な取り組み事例	<ul style="list-style-type: none"> キリン（株）「お酒と健康」 □ キリン（株）「カラダにやさしい「オフ」商品」 □ LION「Supporting Better Choices（英文）」 □

認証取得／
開発／使用
拡大

年次を決めた
目標設定



SDGs 目標・ターゲット	 <p>2 飢餓をゼロに</p> <p>2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。（ターゲット: 2.4）</p>
コミットメント	<p>2.2</p> <ul style="list-style-type: none"> レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援をはじめ、スリランカの紅茶農園を長期的に支援し、認証茶葉の使用を拡大していきます。（キリンビバレッジ）
ストーリー	<ul style="list-style-type: none"> 日本が輸入している紅茶葉の6割がスリランカ産ですが、その約3分の1は「午後の紅茶」の原料に使われています。スリランカの主要産業である紅茶葉の主要輸入企業として、責任ある調達に取り組み、収量の上がる効率的で環境にやさしい農業の実現と、農園で従事する人々の安全性や生活の向上につながるレインフォレスト・アライアンス認証の取得を支援しています。日本のお客様に最も支持いただいている「午後の紅茶」を、この先もずっと安心してお飲み頂けるよう、生産地域の持続可能性を高めながら良質な紅茶葉を安定的に使用できるよう、スリランカの紅茶農園を長期的に支援していきます。
アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 原料となる紅茶葉の調達持続可能性を担保するために、レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を通じて、紅茶葉生産者を支援します。 長期的にレインフォレスト・アライアンス認証茶葉の使用を拡大していきます。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> レインフォレスト・アライアンス認証取得支援農園数の拡大 レインフォレスト・アライアンス認証茶葉の使用拡大

具体的な取り組み事例 > キリン（株）「自然に育まれた原料」 □



どうやって実現・両立するか？

- （例）NGO/NPOとのパートナーシップで
アカウントビリティ向上
- 廃棄物や再エネ利用促進



主要テーマごとのSDGsゴールに対するアクション

活動	主要テーマ1 安心・安全をお届けする				主要テーマ2 地球を守る				主要テーマ3 人を支える				
	自然災害に 備わらない社会 づくり	交通技術革新を活かして 安心して暮らせる社会づくり	ライフスタイル や社会の変化に応じて安心して暮らせる社会づくり	貧困のない社会づくりに つなげた品質向上	環境経営の推進	商品・サービスの多様性を 通じた生物多様性の保全	クリーンエネルギー開発促進等による 地球温暖化防止	環境保護活動を通じた安心して暮らせるコミュニティづくり	健康経営の推進	多様な人材を育成し活用する	みんなが安心して暮らせる健康・長寿社会づくり	未来を担う世代を育てる	共生社会を目指して
1. 貧困をなくそう	自然災害研究成果を保険サービス・地域防災に反映、マイクロインシュランスによる保険アクセスの向上												
	1.5			1.4									
2. 飢餓をゼロに	天候保険による保険アクセスの向上												
				2.3									
3. すべての人に健康と福祉を	交通事故の防止								感染症・非感染症の予防と補償				
		3.6		3.6						3.3,4,d			
4. 質の高い教育をみんなに								青少年育成のための社会貢献活動					
									4.3	4.1,6			
5. ジェンダー平等を実現しよう								多様な人材の活用					
									5.1,5				
6. 安全な水とトイレを世界中に					マングローブ植林等による気候変動影響の緩和								
						6.6							
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに					保険によるクリーンエネルギー施設建設促進								
							7.1,2,3						
8. 働きがいも経済成長も								ディーセントワーク					
								8.5	8.5			8.6	
9. 産業と技術革新の基盤を作ろう	自然災害の科学研究、太平洋災害リスクファイナンスパイロットプログラム				保険によるクリーンエネルギー施設建設促進								
	9.5,9.a						9.4						
10. 人と国の平等をなくそう								高齢者・障がい者・介護の社会貢献活動					
												10.2	
11. 住み続けられるまちづくりを	災害に強い街づくり、街の交通安全				自社ビル環境負荷削減								
	11.5,b	11.2		11.2	11.6								
12. つくる責任つかう責任	エコドライブアプリ、くらしを支援する保険				保険証券発行省略の推進								
		12.2	12.8	12.2,8		12.5,8							
13. 気候変動に具体的な対応を	自然災害研究を保険・地域防災に反映				マングローブ植林等による気候変動影響緩和								
	13.1,3			13.1		13.1							
14. 海の豊かさを守ろう					マングローブ植林等による気候変動影響緩和								
						14.1,2							
15. 陸の豊かさを守ろう					マングローブ植林等による気候変動影響緩和								
						15.1	15.2						
16. 平和と公正をすべての人に	利益相反取引の管理												
				16.5									
17. パートナリシップで目標を達成しよう	ジュネーブ協会等の気候変動マルチステークホルダー・ダイアログ												
	17.16												

東京海上： 保険証券発行省略推進でCSR から本業へ

商品・サービスを通じた生物多様性の保全

マングローブ植林や国内外の環境保護活動を行う「Green Gift」プロジェクトは、NGO・NPO等や自治体、代理店、社員ボランティア等によって支えられ、気候変動の緩和・適応や生物多様性の保全のみならず、災害被害の軽減や植林地・植林地周辺の人々の生活の安定にも貢献しています。また、マングローブの森づくりは、気候変動の緩和や自然資源の持続的な利用の促進、自然災害による被害の軽減等、SDGsのさまざまな目標に貢献できると考えており、持続可能な社会の実現に向けて、今後もマングローブの森づくりを推進していきます。

記載内容とSDGsとの関連

該当するゴール	該当するターゲット	関連記載の説明
 6.安全な水とトイレを世界中に	6.安全な水とトイレを世界中に	6.6 湿地を含む水に関連する生態系の保護・回復 植林による社会貢献
 12.つくる責任つかう責任	12.つくる責任つかう責任	12.5 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減 12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つ 保険証券発行省略の推進
 13.気候変動に具体的な対応を	13.気候変動に具体的な対応を	13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。 植林による社会貢献 マングローブ植林による経済価値と地域社会にもたらした影響
 14.海の豊かさを守ろう	14.海の豊かさを守ろう	14.1 あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減 14.2 海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避 植林による社会貢献
 15.陸の豊かさを守ろう	15.陸の豊かさを守ろう	15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復 東日本大震災復興海岸再生プロジェクト お客様と一体になった植林～PHLY 80K Trees～

http://www.tokiomarinehd.com/sustainability/group_csr/sdgs.html

企業とSDGsの可能性

1. 企業活動とSDGsとの紐付け、社会と企業との関連の明確化
 - 持続可能性に関する貢献、グローバルな貢献は思った以上に多い
 - 途上国等の開発計画との紐付け
 - 社内認知度向上
2. 目標達成へのポジティブな活動・ネガティブな活動の明確化
 - ネガティブなインパクトを減らすための戦略・仕組み・技術の検討へ
 - 目標検討、進捗計測指標検討：SDGsは目標へ向けた改善を重視。大事なのは目標にどれだけ近づいたか。必ずしも現状がどうかということではない！
3. 社内→業界→世界的（？）認証（or標準化）制度（SDGsサポーター制度／表彰制度）構築
 - 業界・国レベル・国際レベルでの標準化へ
4. SDGsリーディングカンパニーとしてのブランディング・宣伝効果
 - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー

15年で変わる世界

Easter Parade on Fifth Avenue, New York, 13 years apart

1900: where's the car?

1913: where's the horse?



Images: L, National Archive, www.archives.gov/research/american-cities/images/american-cities-101.jpg

R, shorpy.com/node/204.

Inspiration: Tona Seba's keynote lecture at AltCar, Santa Monica CA, 28 Oct 2014,

<http://tonyseba.com/keynote-at-altcar-expo-100-electric-transportation-100-solar-by-2030/>